

第1回北山エリア全体調和意見聴取会議委員発言要旨

- ・全体調和には、様々なエリア内施設機能を組み合わせて魅力を最大にしていく視点と、社会の変化により今後求められる要素を踏まえた視点をもって、考えをまとめていくことが必要ではないか。
- ・北山エリアのにぎわい再生には音楽や芸術に加え、飲食店の誘致をはじめ食文化の活用も重要であると考え。また、文化芸術への支援拡充も重要であるとともに、コンサートホールの改修などを契機にみんなで議論して、みんなの財産であるという意識をもって取組を進めていければと考える。
- ・北山エリアが人や地域のつながりを深められる場となることを期待しており、つながりのパターンも増やしていけたらよいのではないか。また、防災の観点から避難所機能や災害時の地域貢献についても重視すべき。
- ・北山らしい街の個性を大切にしながら、共通の将来像を持ち、そこに向かってだれがどのような役割を担うのか検討・共有することが大事。それに向けて施設間連携や回遊性を高める可変性のある空間整備が重要ではないか。その際には大学の役割も大きいのでは。また、周辺地域との調和を図るうえでエリアマネジメント体制の構築が有効であろう。
- ・北山通りは時代とともに変化しながらも魅力を維持しており、今後も発展させていきたい。また、デジタル技術の活用や企業との連携、音楽教育の場づくりなどを通じて地域全体の価値向上を図っていくべきではないか。
- ・北山だけでなく京都全体の文化ゾーンとの関係性を踏まえて地域の位置付けを考える必要がある。また、新施設整備については具体的なイメージの共有が重要であり、地域に根付く伝統文化の継承と発信にも力を入れるべき。
- ・葵学区の住民は落ち着いた生活環境を望んでおり、過度な商業化を避けながら魅力向上を図ってほしい。また、地域の歴史を活用した学びのつながりや住民の愛着の形成、防災の観点も重要で、住民参加による幅広い意見聴取も必要ではないか。
- ・音楽家として地域に貢献する観点から、会議を通じて住民ニーズを伺っていきたい。大学で小学生向けのイベントを行った際、裾野を広げる目的で楽器に触れていただく機会を設けたが、課題はありつつもこのような教育機能として貢献できる可能性があると考えている。
- ・エリアの魅力の育て方の観点では、地域づくりに住民が参画できる仕組みが重要であると感じる。長時間滞在することでより魅力に引き付けられると感じており、地域の魅力向上につながるのではないか。平時の文化的な利用や滞在のしやすさに加えて、災害時にどのような役割を担えるのかという視点も全体調和の観点から重要ではないかと感じている。